

新型コロナウイルス感染症下における がん検診受診状況の変化について

厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業
「がん検診の適切な把握法及び精度管理手法の開発に関する研究」班

国立がん研究センター社会と健康研究センター検診研究部
高橋宏和

がん検診受診状況の把握法

	地域保健・健康増進事業報告	国民生活基礎調査
対象	市区町村の実施する がん検診の対象者	抽出された世帯
受診の定義	「がん予防重点健康教育及び がん検診実施のための指針」 に沿った受診者	自己申告に基づく受診者 (誤回答の混入がありうる)
調査頻度	1年に1度	がん検診に関しては3年に1度
特徴	<ul style="list-style-type: none">• 実数による把握• 住民検診における受診者の把握 (職域におけるがん検診の把握は不可)	<ul style="list-style-type: none">• 自己申告に基づくアンケート• 実態よりも過大評価されやすい

- いずれも調査翌年度の報告
- 月別の集計はできない

背景と目的

新型コロナウイルス感染症の影響により、がん検診の受診状況が変化していることが一部の医療機関などから報告されている。本検討は、がん検診受診に関する悉皆性の高いデータを報告することを目的とする。

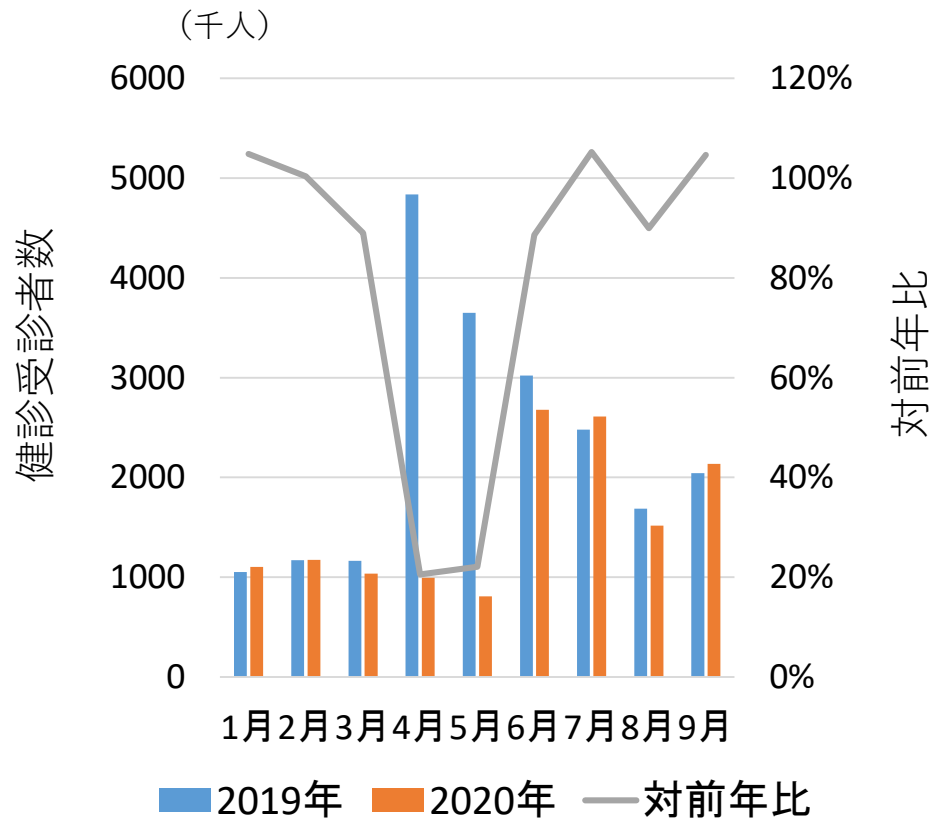
方法

厚労科研「がん検診の適切な把握法及び精度管理手法の開発に関する研究」班により、全国労働衛生団体連合会、日本対がん協会、聖隷福祉事業団における、2019年および2020年の月別がん検診受診者数を取りまとめる。
(集計対象や検診方法は統一されていない)

健診受診者数の推移

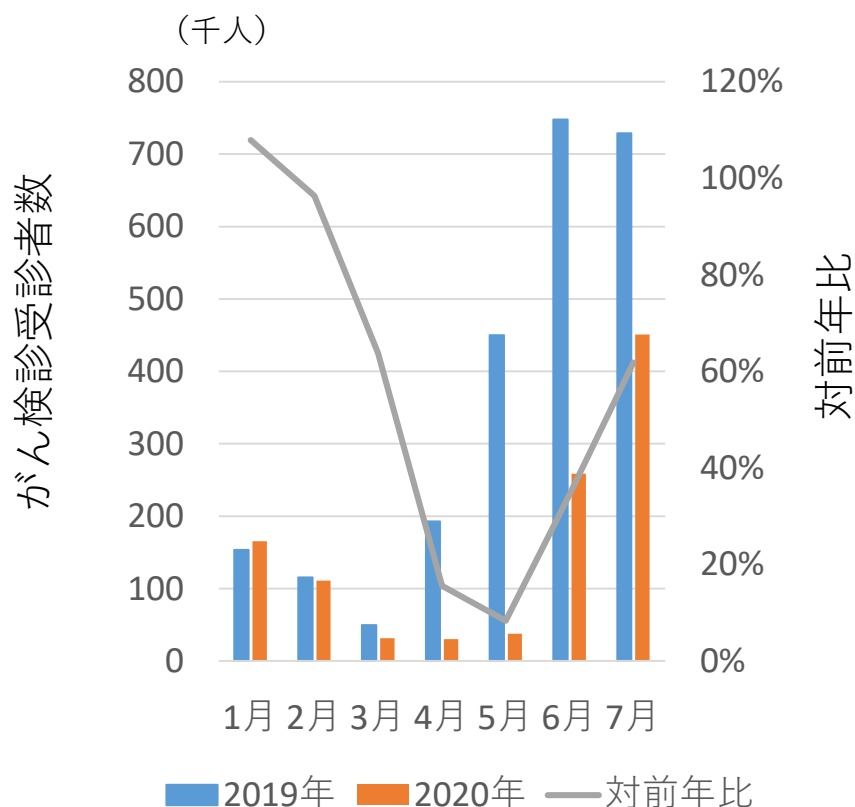
(日本総合検診医学会、全国労働衛生団体連合会)

- 日本総合検診医学会、全国労働衛生団体連合会に加入する180機関からの回答
- 健診受診者数は全年齢・男女計であり、事業者健診、特定健診、人間ドック健診、学校健診、その他健診の合計
- 令和2年7月末時点でのデータであり、令和2年8月9月は予約数より算定



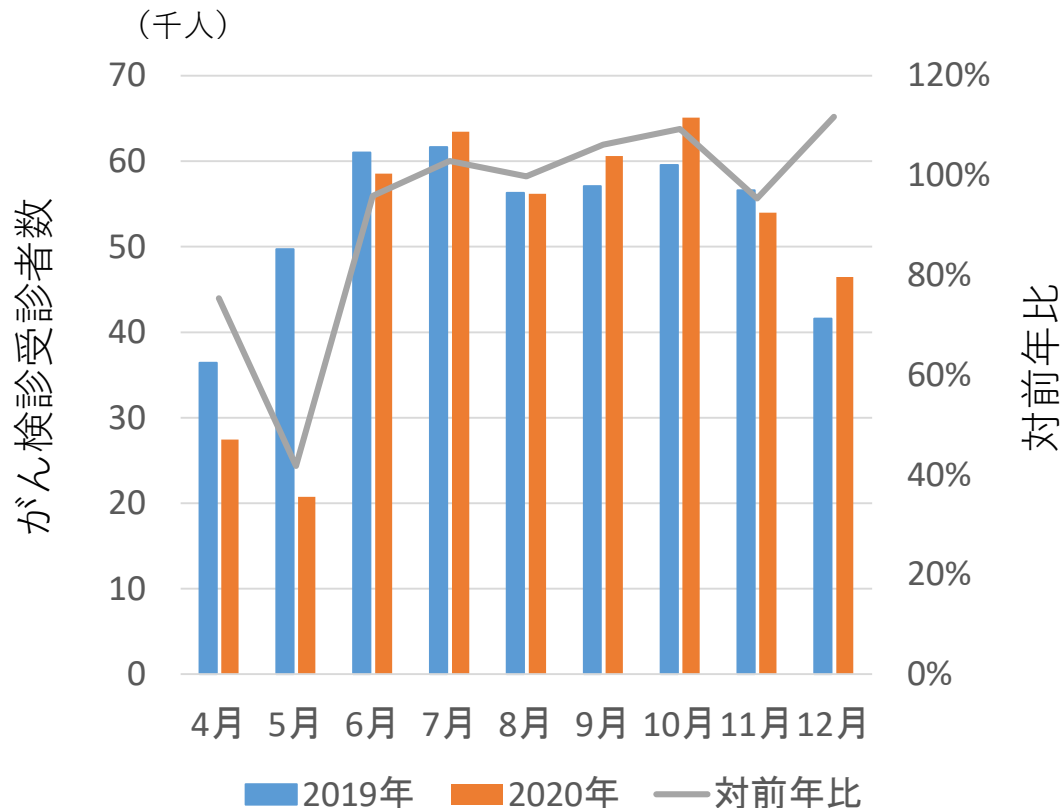
がん検診受診者数の推移 (日本対がん協会29支部)

- 日本対がん協会29支部からの回答
- がん検診受診者数は、5がん（胃・大腸・肺・乳・子宮頸）における、自治体で実施している集団で行うがん検診の下記年齢・男女計
- 胃・大腸・肺・乳がん：40歳以上 子宮頸がん：20歳以上
- 令和2年9月時点でのデータ



がん検診受診者数の推移 (聖隷福祉事業団)

- 聖隷福祉事業団関連機関からの回答
- がん検診受診者数は下記年齢・男女計であり、5がんにおける住民検診と職域検診の合計
- 検診方法：胃がん（X線、内視鏡） 大腸がん（便潜血検査） 肺がん（胸部X線） 乳がん（マンモグラフィ） 子宮頸がん（細胞診）
- 胃・大腸・肺・乳がん：40歳以上 子宮頸がん：20歳以上
- 令和3年2月時点でのデータ



考察

- 2020年4-5月のがん検診および健診受診者数は前年同月と比べ大幅に減少した
- 2020年6月以降は前年同月とおおよそ同程度に受診者数は回復している
- 年度における変化などを今後検討する必要がある
- 受診者を把握するための体制について検討する必要がある